



日露エネルギー・環境対話 in 新潟

極東ロシアの資源開発と 日本の参画

2008年11月18日

Masumi Motomura

Japan Oil, Gas and Metals National Corporation
(JOGMEC)

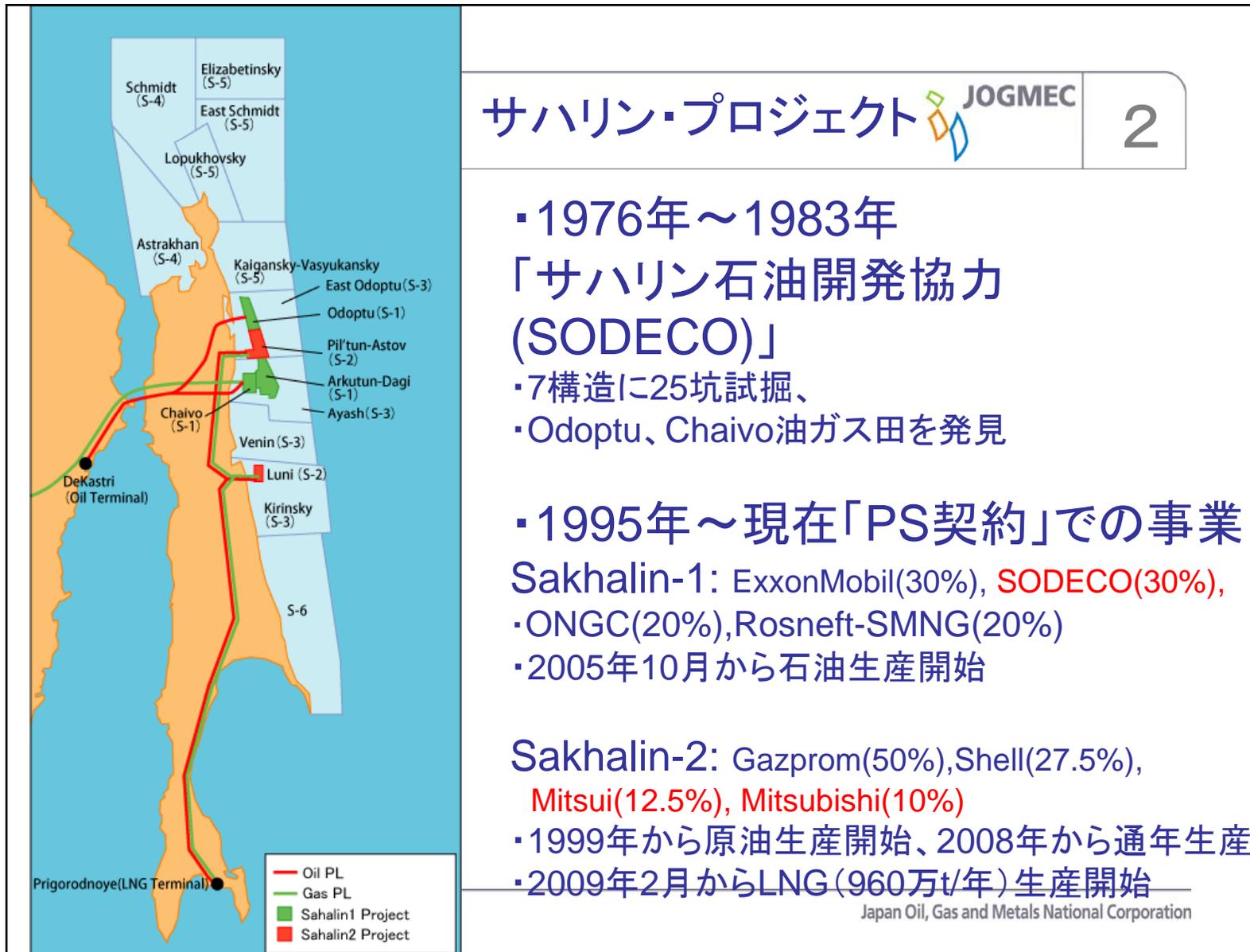
独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

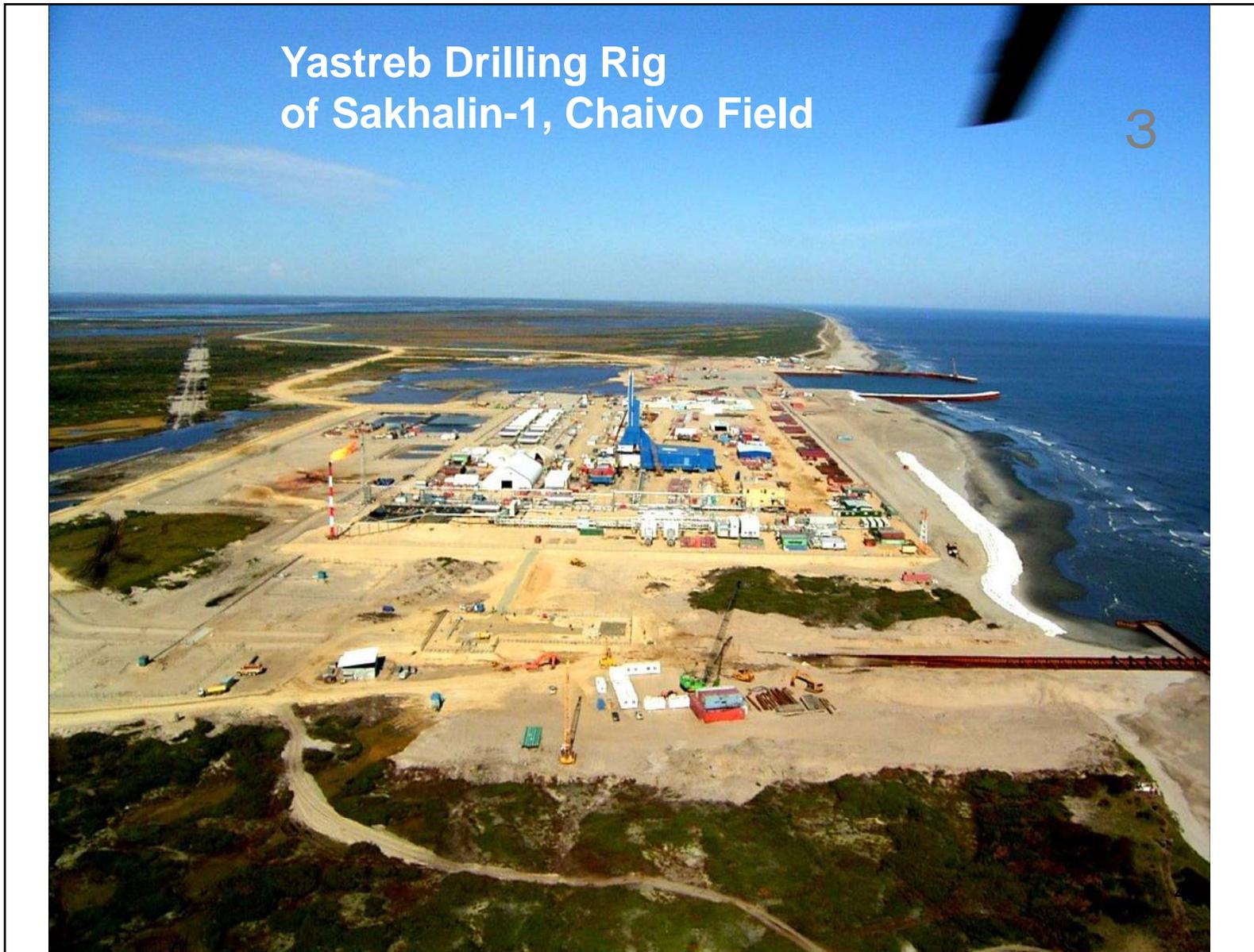
極東ロシアの資源的意味合い



1

- 日本はエネルギー安全保障の観点から、中東に偏重した原油供給ソースを分散させる必要あり。
- 低下するインドネシアのLNG供給を補う新規のLNGソースが必要。
- 極東ロシアは、その供給能力、距離的な近さ、政治的安定性から、原油、天然ガスともに新規ソースとして最も期待される。







**LNG Facility at Prigorodnoye
Sakhalin-2**

「日露行動計画」



5

- 2003年1月小泉総理訪露時にプーチン大統領と締結。
 - 両国は、ロシア建邦の極東及びシベリア地域におけるエネルギー資源開発及びその輸送のためのパイプライン整備プロジェクトの実現に向け協力する。
 - 両国は、ロシア連邦の極東及びシベリア地域における石油ガス田開発分野での両国企業の協力が進展することを支持する。
 - 両国は、自然環境に配慮しつつ、サハリン1・2プロジェクトの進展並びに関連する生産物分与協定及びビジネスが円滑に実施できるよう、引き続き努力する。
 - 両国は、日露エネルギー協議において、エネルギー協力拡大のための意見交換を継続する。

ハイリゲンダムG8サミット、2007年6月

LOGMEC

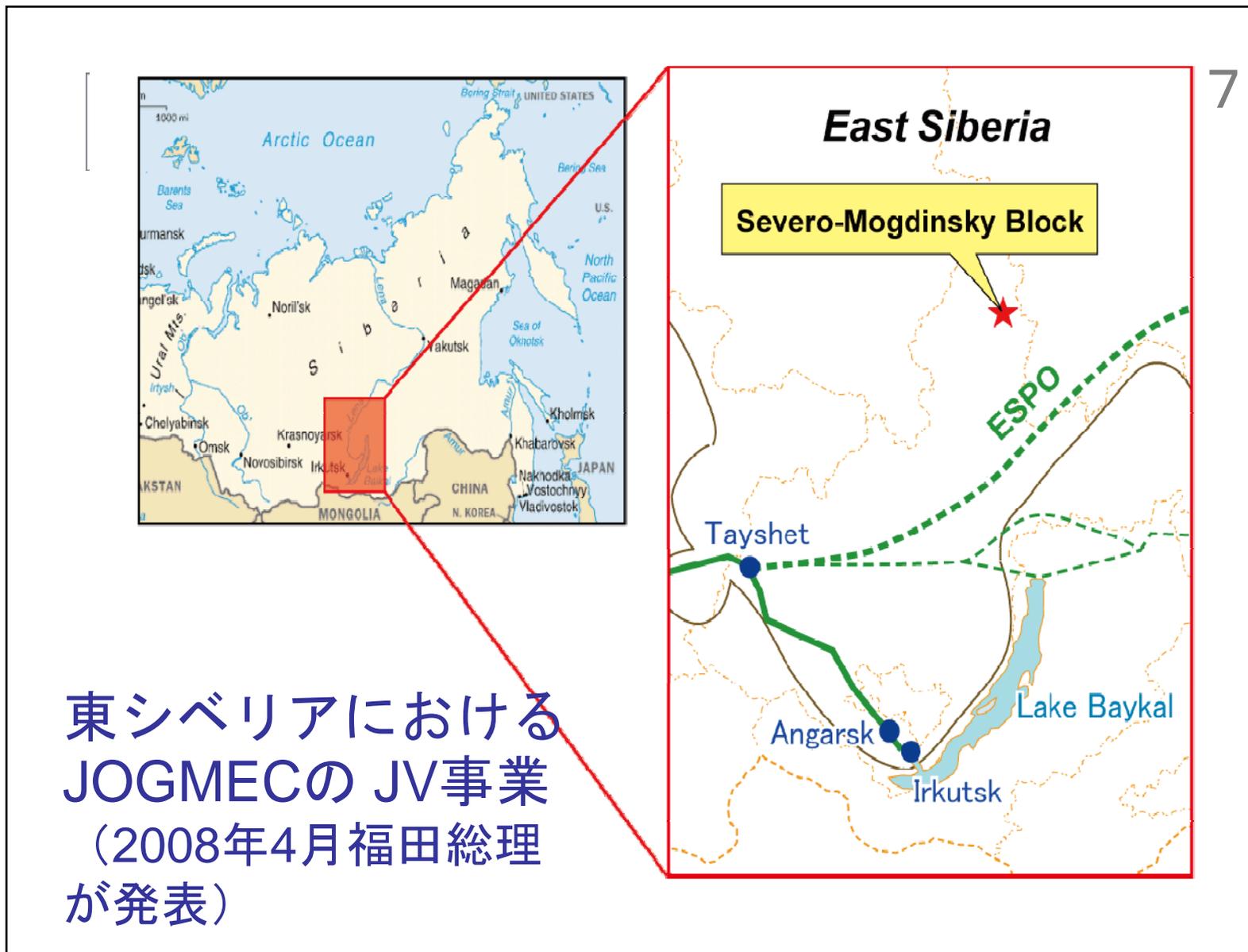
6

「極東・東シベリア地域における日露間 協力強化に関するイニシアティブ」

安部総理とプーチン大統領との間で締結

1. エネルギー

アジア・太平洋諸国の中長期的なエネルギー安全保障及び極東・東シベリア地域の発展のためのエネルギー安定供給の確保に向け、石油、天然ガス、原子力平和利用等の分野において日本が有する高度な技術とロシアの事業基盤を相互補完的に活かしつつ、極東・東シベリア地域における日露両国企業の協力を促進する。



東シベリアにおける
JOGMECのJV事業
(2008年4月福田総理
が発表)

JOGMECとINKの共同事業



8

- ・ JV企業名：“INK–Sever”
- ・ 参加比率：Irkutsk Oil Company(51%), JOGMEC(49%)
- ・ 鉱区：“Severo–Mogdinsky block”
 - 面積：約3,700km²
 - 位置：イルクーツク市の北約1,000km
 - ESPO (East Siberia–Pacific Ocean) パイプラインから約150km
- ・ 探鉱期間：5 年間
- ・ 事業内容：地震探鉱、試掘

その他の新規共同事業



9

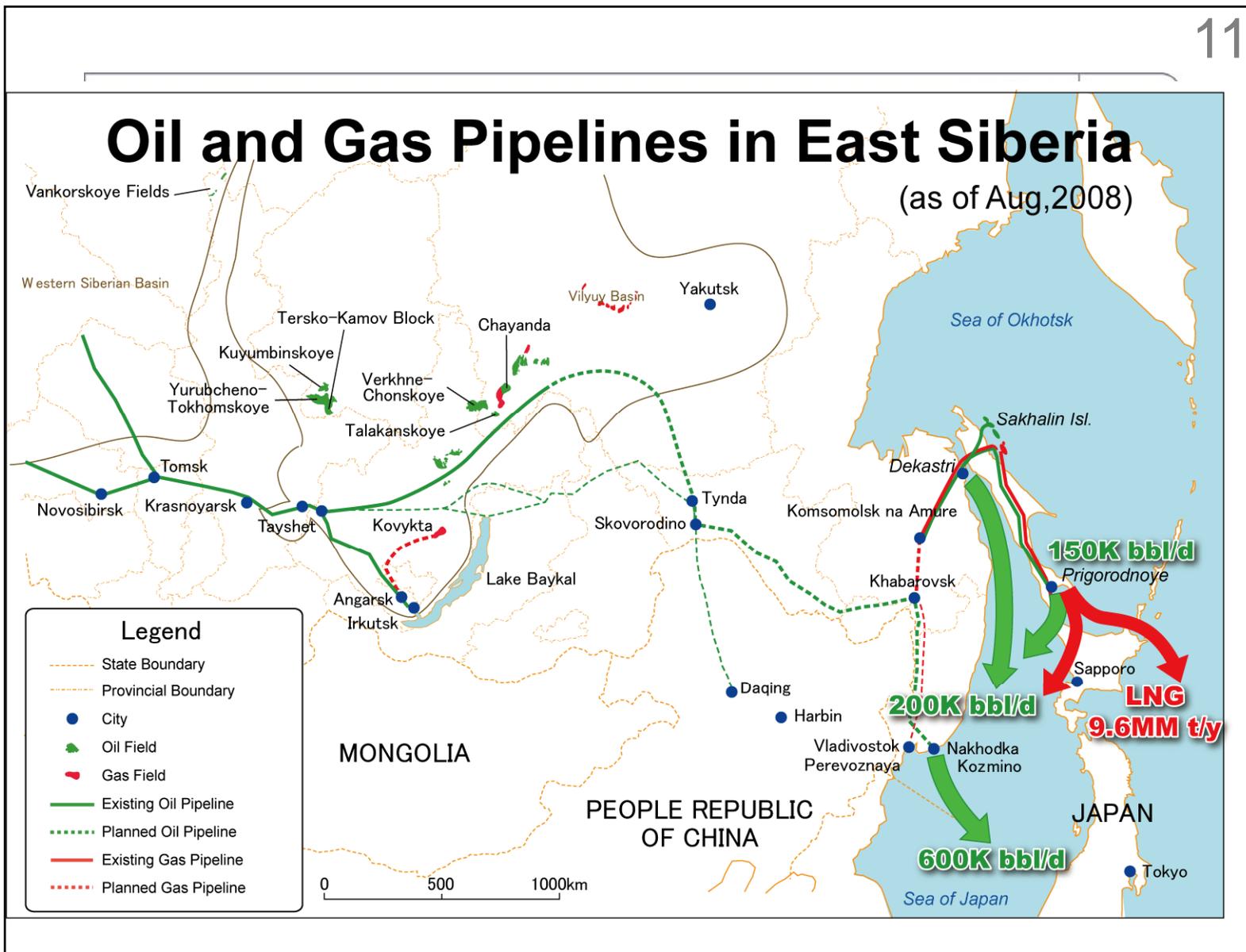
- EN+とJOGMECの共同事業
 - EN+ (Basic Element傘下)が9月発表
 - 子会社のUnited Oil Group(UOG)と合併設立予定
 - 対象事業は東シベリア・極東での石油ガス開発
 - 詳細は協議中
- SakhatransneftgazとJOGMECの共同事業
 - サハトランスネフチェガスとJOGMECが油ガス探鉱を事業内容とするJV設立することを9月発表
 - 対象事業はサハ共和国での石油ガス開発
 - 具体的なプロジェクトに関しては協議中

北東アジアへの新規石油・ガス供給

JOGMEC

10

- Sakhalin-2
 - 石油:1998年からVityazプラットフォームで夏期生産開始, 3万bbl/d
 - 2008年秋からパイプラインの完成により通年生産。Prigorodnoyeから輸出→10万bbl/d以上
 - LNG: 2009年1Qから, 960万トン/年で生産開始
- Sakahlin-1
 - 石油: 2005年から生産開始, 現状DeKastriから 20万bbl/d輸出
 - ガス: ハバロフスクへ、2011年にウラジオストックへ天然ガスパイプライン建設。LNGの可能性も
- ESPO (East Siberia–Pacific Ocean)石油パイプライン
 - 第1段階: 2009年末にSkovorodinoまでパイプライン、Kozminoまで鉄道輸送、60万bbl/d
 - 第2段階: 2014年頃、Kozminoまでパイプライン完成、100万bbl/d



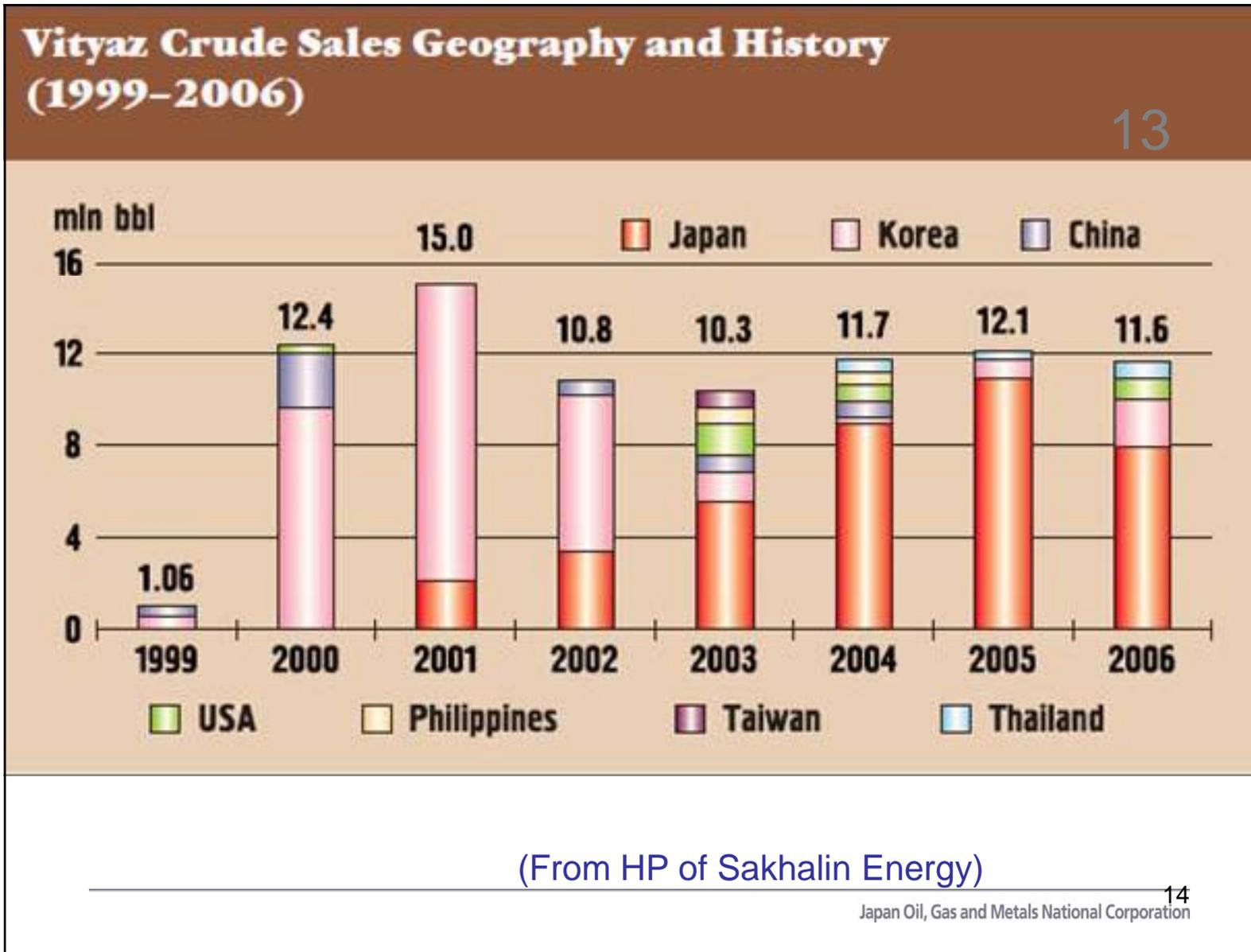
大慶支線に関する動き



12

10月28日：プーチン、温家宝両首相第13回露中定期首脳会合

- (1) プーチン、温家宝両首相首脳会合
「中国向けのパイプライン支線についてのゴーサイン」(Sechin副首相)
- (2) Sechinと王岐山両副首相
 - ・合意内容：ロシアエネルギー相の主宰する露中の石油分野の協力に関するワーキング・グループの設立
- (3) Transneft(露)とCNPC(中)の合意
 - ・合意内容：「東シベリア・太平洋パイプライン(ESPO)のSkovorodinoからの70kmの支線に関する建設と操業に関する原則合意」
 - ・「原油の長期供給契約は未締結で、11月25日までの間に、Rosneft, TransneftとCNPCとの間で更に議論する」Sechin発言



サハリン原油の日本における意義



14

- 日本はSakhalin-2原油の主要な購入者
- 北東アジアのエネルギー安全保障へ貢献
 - 日本の製油所は中東原油(高硫黄)対応
 - サハリン原油は、軽質低硫黄で価格は高めであるが短期の需要対応に有用
 - 中東原油の日本への輸送が20日かかるのに対して、サハリン原油は3-5日の行程
 - 日本海にはチョークポイントなし
 - サハリンの原油は日本の精製企業で歓迎
- 2008年の中東依存度は85%まで低下

ウラジオストックにおける製油所



15

- ロスネフチがRN-Primorsky製油所を設立
- 事業コスト： 50～70億ドル
- 場所：Yelizarov岬、KozminoとVladivostokの中間地点
- 処理能力：第1段階 1,000万トン/年
- 第2段階 2,000万トン/年
- 輸出：生産量の90%をアジア太平洋地域に
- 世界の趨勢に併せた環境対応が期待される

RN-Primorsky製油所のあるYelizarov



16

山田

